

# 年頭所感

新年を迎えるにあたり、皆様に所信を申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 「1年を振り返って」

2024年を振り返りますと、元日に令和6年能登半島地震、9月には奥能登豪雨が発災し、たくさんの方が亡くなり、また被災されました。衷心からご冥福とお見舞いを申し上げます。

1年がたった現在、解体や修理は徐々に進んでおり、例えば和倉の護岸工事も2026年度までに工事完了を目指すことになっておりますが、能登地域全体のお客様の生業も含め復旧・復興が進んだという実感がわかないのも現実であります。地域の人口減少も加速しています。

一方で、全国各地の信用金庫、信用金庫系統機関、関連団体、お客様から次々と応援の声や支援物資が届き金庫の役職員の生活の安定に役立たせていただきました。その後は被災事業者の製品・商品・サービスを提供する機会のご提供や、お客様のご旅行で当地を訪問されるなどの数多くのご支援を受け、2025年も引き続きお声掛けいただくなど「相互扶助」という信用金庫の良さを体感しております。

それらの力を頂き、我々に何ができるか、お客様のニーズをくみ取って金融サービスの提供はもちろんのこと、それ以外でもできることはないかを考え、一刻も早い能登地域の復興を目指し、努力を続けていく必要があります。昨年12月に興能信用金庫様と「能登復興支援に係る業務協力に関する覚書」を締結した事もその一つです。従来の概念にとらわれずお客さまと一番近い場所で力を発揮できる信用金庫の強みを活かして、それぞれの役割を自ら考え実行してください。本年は昨年に引き続き災害からの復旧・復興とお客様の生業再建に加えて能登地区、金沢地区それぞれの店性に応じた金融支援に取り組み、より創造的な行動をしていく必要があります。

金融を取り巻く環境にも大きな変化があった年でした。日本銀行のマイナス金利政策が解除され、当金庫も預金金利と貸出金利を上げました。従来からの資源価格の高騰と人手不足など厳しい状況にあるお客様も多いと考えます。当金庫は今まで以上に本業支援に注力し、物心両面の支えになるべく努力を継続し、その結果として適正な金利を頂く事が求められます。「金利ある世界」

## 「お金をお貸しする前に知恵をお貸しする」

事業先に対しては創業支援、販売促進支援、事業承継、事業再生等の本業支援機能の強化に努めるとともに、そのサービスの対価として貸出金利息や手数料等を確保し、持続可能なビジネスモデルの構築を図ります。特に事業承継、事業再生に関しては、当該のお客様のみならず、地域の重要なネットワーク（取引先、従業員、顧客）が失われる危険性があり、他の機関との連携を図りながら重点的に対応する必要があります。

次に個人を含むすべてのお客様に対し顧客本位の業務運営を確立し、各種セミナー等を通じ新NISAやiDeCo等による資産形成のお手伝いをする提案や、社員の福利厚生を高める提案、キャッシュレス社会に対応するサービスの提供を行います。

## 「人的資本経営」

以上を取り組むために、また、サステナブル（持続可能）組織を構築するためには金庫内の役職員のコミュニケーションも十全に図り、現状認識や問題意識を共有し、そのうえで人・モノ（設備、機器、システム）・カネ（資金・予算）の適正配分を考えなくてはなりません。それらの経営資源のうち、特に重要なのが「人的資本」です。

信用金庫が地域やお客様に貢献するためには、役職員自身がここで働きたいと思えるような組織にしなければなりません。安心して働ける給与体系の見直し、職員一人一人の成長を促す人事戦略、透明性のある人事評価制度を本年4月から導入します。その上で「金庫を自分たちが主体的に運営している」「地域を私たちが支えている」という、やりがい（エンゲージメント）を持てることが重要です。

個人が持つ人的資本を十分に発揮するための基礎を再構築し、社会の枠組み、個人の多様性や価値観が変わっていく中で競争力を維持できる組織作り、人事制度の改革を行います。

管理面では金利上昇の中での資金の効率的運用とリスク管理が重要です。また業務運営の効率性向上を図るため業務や組織、店舗網の見直しなど将来を見据えた行動を確実に進める必要があります。地域の労働力不足の進行や金庫の人員の状況を見据え、生産性向上のための業務改革を継続し、経費の削減を行うと共に攻めの投資を行っていかねばと感じております。

また以上の根底には、マネロン対応を含む法令等遵守に基づく適切な業務運営や様々なリスク管理体制の構築が必要であることは言うまでもありません。

その他にも利便性向上とサイバーセキュリティの強化、新たなリスクへの迅速な対応を行い、お客様の大切な資産をお守りする体制を深化していきます。

### 「雲外蒼天」

本年、当金庫は創立110周年を迎えます。地域やお客様に感謝すると共に、先人への敬意を胸に、役職員の皆様には以上のことを十分に理解され、信用金庫としての原点と使命を胸に刻み、主体性と自律性を持って、心ひとつに取り組みれることを希望します。

冬の厚い雲の上には、常に青空が広がっています。

こうした認識のもとスタートする令和7年は、そのメインテーマを

## お客さまと地域、そして職員の幸せの創造と実現

と定め、次の基本方針を掲げることといたしました。

1. 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興のため地域金融機関としての取組みの推進
2. 創立110周年を迎え新たな価値を創造し、会員、お客様、地域からの共感・信頼を得られるように努める。
3. 一人一人が安心して成長できる環境を整備し、ここで働きたいとみんなが思える金庫を目指す。
4. 厳正な審査と再生支援による債権の良質化と債権管理の充実強化。
5. 市場金利の変動を踏まえた貸出と有価証券ポートフォリオの再構築。
6. 全金庫的な法令等遵守態勢の確立、リスク管理態勢の高度化を図る。

本年が、役職員とご家族の皆様にとりまして、幸福で最良の年であるとともに未来への希望の年となりますよう心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

令和7年1月6日

理事長 鈴木正俊